

生活環境分科会

本分科会のポイント

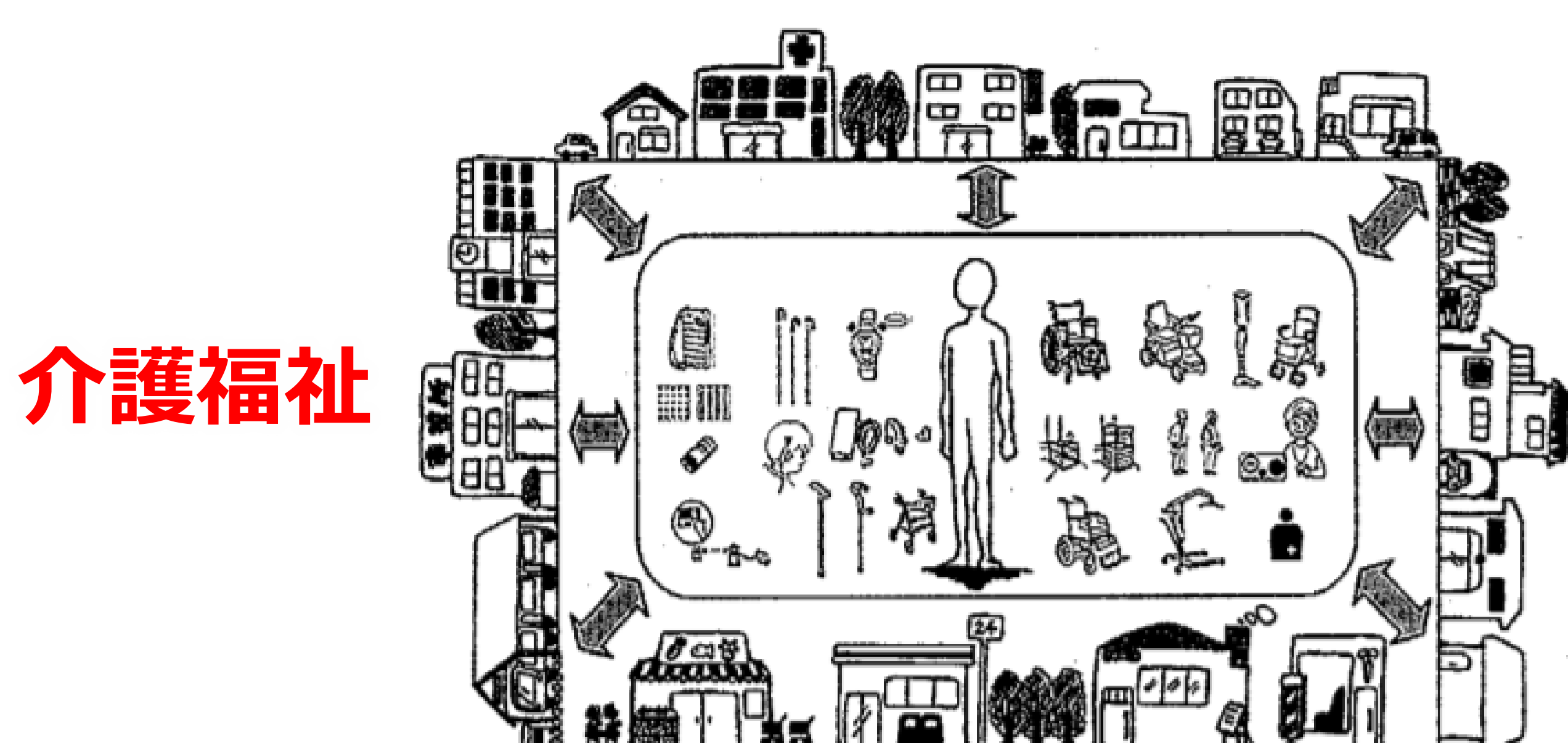
- 安心・安全、QOL(生活の質)・QOW(働き方の質)の向上を目標に活動します。
- 助成金獲得や共同研究体の構築によりセンシングデバイスの試作を行います。
- デバイス技術をニーズに繋げるための市場動向調査も行います。

本分科会のねらい

安心・安全社会の実現、QOL(生活の質)・QOW(働き方の質)の向上を目的として、人の生活環境を精密にセンシングし、制御する技術が求められています。その実現に向けて、居住空間やオフィス、あるいは衣服等、生活環境に関する高度なセンシング技術について技術的な共通課題を抽出し、助成金の獲得や共同研究によるセンサデバイスの試作、あるいは各種技術動向の調査などを通じて、各参加メンバーの技術開発力向上や技術開発戦略の策定、メンバー間の連携を図っています。

活動内容

本分科会では、居住空間、オフィス等の日々過ごす空間、あるいは日々身にまとう衣服といった生活環境における接触、非接触状態での生体情報取得や、環境等をセンシングする技術の動向調査を分科会メンバーの皆様と共に行ったり、専門家を交えた勉強会を行っています。そこから、環境センシングの意義やそれを実現するための課題を抽出し、センサデバイスの製造および実装技術等の技術課題として取り纏めます。さらに、デバイスの出口、サービスについての情報収集を行い、デバイスからサービスにワンストップで繋げるための連携体制構築や今後の施策提言等に活用します。2024年度は、年3~4回の予定で、介護福祉（環境）見守り分野での議論を進めてまいります。その際、単に個々の高齢者や乳幼児等を見守るという視点だけでなく「まちが見守る, まちで見守る まちを創る」といったまちづくりの視座からも広く議論を進めるとともに、その議論をもとに技術あるいは市場の調査、助成金の獲得や実際デバイス試作など、幅広く活動を行ってまいります。



- 助成金獲得
- 共同研究体構築

- 試作/実証試験
 - ・IoT介護用品
 - ・フィールドワーク
- 新規事業分野開拓
 - ・介護福祉ビジネス
 - ・まちづくりビジネス

センシングシステム研究センター

野村 健一 (k-nomura@aist.go.jp)

竹下 俊弘 (toshihiro-takeshita@aist.go.jp)

国立研究開発法人

産業技術総合研究所